

# ボランティアスタッフの声

## 第5・6回スタッフ 坂部 博恵さん(ひろえちゃん)



現在は陶芸作家

### Q1 「きっかけ・動機」

当時、将来音楽関係の仕事に就きたいと考えていたことを知っていた友人が、LK のイベントスタッフ募集のチラシをくれました。仕事につながるかどうかというより単純に楽しそうと思い、応募しました。

### Q2 「変化・成長したコト」

様々な年代の人たちと上下関係なく同じ一つのことに向かう経験は初めてでしたので、より多様性を学び、その人そのままを尊重することが大切だと思った記憶があります。その後、LK をきっかけに FM 京都で働くことになるとは全く想像していませんでしたが、なかなか貴重な環境だったのだなと改めて思います。なにがどこへつながっていくのかは自分の想像をはるかに超えていて、そこを面白いと思っていればいいのだな、と体感的に知った出来事だったと思います。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

優勝したからといって即デビューに繋がるとか、どこかのレコード会社と結びついているとかといった主旨のものではなかったからか、ほんとうに技術レベルもジャンルも様々なバンドの皆さんのが参加されていて、学園祭のようなお祭りのような雰囲気で、審査員の方々のジャッジもどこか和やかで優しく、そこが LK だなという印象が残っています。

### Message:

私が LK に関わらせていただいたのはもう 25 年も前のことです。時代も違いますし、若いみなさんを取り巻く環境も激変し、きっと今の方がずっと生きにくいことだろうと想像します。それでも、周りの大人的常識ではなく、自分の感じ方を真ん中に据えて生きていくべきことには変わりないと信じるしかないのは、昔も今も同じだと私は思っています。誰かになんとかしてもらうのではなく、自分で自分をどうにかする、LK だけではなくて、協会の方々が教えようとしてくださっていることはそういうことかな、と、これからの若いみなさんが少しでも感じとれていればいいなと思っています。

### ☆1 LIVE KIDS とは？

### 「自由な場所」

### Q4 「大変だった！コト」

とくに記憶にありません。当日は素人ばかりの集まりですから、ばたばたしていましたが、きっと周辺のプロのかたたがたが全てフォローしてくださいましたおかげで、苦労を感じずに楽しんでいたのだと思います



関わっていただいた「ボランティアスタッフ」にアンケートを行いました。アンケート項目は下記。

☆氏名 (LIVE KIDS 内でのニックネーム、現在は何をされていますか?)

☆1.LIVE KIDS とは?一言で表すなら、どんな言葉が浮かびますか?

☆2.LIVE KIDS へのコメント (Message)

Q1.LK に参加しようと思った「きっかけ・動機」等理由をお聞かせください。

Q2.LK を通して「成長」「変化」したこと、「あの経験が（その後に）影響したこと」はありますか?

それは、どんなことですか?

Q3.LK で、印象に残ったコト・エピソードはありますか?

Q4.LK で、苦労したこと・大変だった!エピソードはありますか?

Q5.当協会や今後の事業に「期待するコト」があれば、お伝えください。(以下共通。)

## 第5・6回スタッフ 松田 奈美さん(なみ)



現在は営業

### Q1 「きっかけ・動機」

楽しそうだったので

### Q2 「変化・成長したコト」

長くお付き合いのできる、たくさんの人と出会えた。いろんな世代の人たちと交流ができた事。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

谷口キヨコさんと一緒に司会(?)できた事。

### Message:

25 年間お疲れ様でした！若かりし自分にとってはものすごく大切な経験になりました。これからもみんなでいろんな楽しい事できたらいいな♪

### ☆1 LIVE KIDS とは?

### 「夢！」

### Q4 「大変だった！コト」

特に無し。楽しい事ばかりでした。

### Q5 「期待するコト」

子どもたちの夢や、様々な人たちのサポートをしてくださっているので、これからも応援し続けます！がんばってください！



## 第5・6回スタッフ 田中 結布子さん（旧姓：富谷）（ゆうこ）



現在は心理カウンセラー、手話講師

☆1LIVE KIDS とは？

「青春」

「Move my heart, Feel your heart」

### Q1 「きっかけ・動機」

大学の中では手に入れないつながりを見つけるため。

### Q2 「変化・成長したコト」

多くの人たちと一つのものを作り上げていくということを経験し、人それぞれに考え方ややり方があることを知りました。その頃の経験を生かして、その後に就いた仕事(京都府教育委員会職員として)の中で、様々な立場の人の意見を受け止めつつも、皆をまとめていくことを、難しくも楽しくやりがいがあるものと前向きにとらえることができました。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

メンバー同士で揉めることがあったとしても皆仲が良かったこと。センターの小嶋さんや岡本さん、岡江さんがいつもニコニコして対応してくださいました。そのおかげで、私たちは気持ちよく活動させていただきました。

### Q4 「大変だった！コト」

特にありません。渦中にいるときは、大変なこともあったかと思うのですが、記憶にありません。どれもが楽しく素敵な経験になっています。

### Q5 「期待するコト」

若者が意見を出し合い、自ら企画をするというイベントは、たくさんありますが、当事業は、大人に見守られつつ、安心安全な場所で遂行できるという場がありました。大学のサークルでもなく、インターンシップでもない、アルバイトでもない経験ができる場所。

### Message:

京都市ユースサービス協会設立30周年、誠におめでとうございます。

ライブキッズも25回という回数を重ねられ、たくさんの人々に音楽と感動を届けてこられたことと存じます。私は大学入学とともに、ライブキッズに参加させていただきました。

勉学に明け暮れ、アルバイトに励む中、ライブキッズに携わった時間は、時に悩み楽しむ充実した日々となりました。

年齢的にも精神的にも、子供ではない、でも大人にもなりきれない、そんな私に貴協会の方々は仕事に携わる大人としての姿勢を見せてくださいました。

時にあたたかく、時に厳しく、時に待って見守ってくださいました。親ではない、友達でもない、身近な大人の方からの助言だったからこそ、素直になれた部分もありました。

またライブキッズをきっかけに、京都新聞の新春対談のコーナーに推薦していただき、当時の社会で活躍される方々と出会い、言葉や考えに触れるすることもできました。

一つひとつが、私にとってかけがえのない経験となり、後に社会人となったときには、ライブキッズでの経験も自分の礎になっていたのだと感じました。

これからもぜひ、若者たちが何かのきっかけを掴むことができる場であり続けていただきたい。

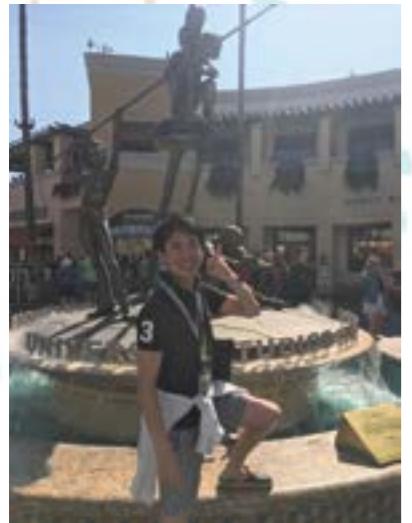
安全安心な場として、学びの場として、社会に寄与していただくことを望むとともに、貴協会のさらなるご発展をお祈りいたします。

ありがとうございました。



## 第5・6・7回スタッフ

高野 淳一さん（じゅん）



### Q1 「きっかけ・動機」

きっかけはその時の青少年活動センターにて「遊びのリーダー」という子どもと遊ぶボランティアをやっていた際、小嶋さんと知り合い、このライブキッズを紹介いただいたのがきっかけです。

### Q2 「変化・成長したコト」

色々な事に積極的になれた事だと思います。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

ヘッドチーフをさせていただいたので大会が迫ると会議の他に頻繁にその当時住んでいた亀岡から京都まで通って小嶋さんと打ち合わせしていた事を思い出します。

### ☆1LIVE KIDS とは？

「大学時代の青春」

### Q4 「大変だった！コト」

今でも同じかもしれません、色々な大学や社会人の方など様々な人が参加してひとつのものを作り上げるので、まとめていく事が大変でありました。またそれがいい思い出になりました成長につながる事なんだろうなと感じます。

### Q5 「期待するコト」

京都は学生の町でもあり全国から色々集まつくる中で私のように石川県から来てライブキッズに参加した事でたくさんの人と出会い、刺激を受け、また自分の成長に繋がったと思います。これからもそんな場所であり続けてくれたらこれらの学生さんや若い人にとってかけがえのない場所になるかと思います。大変な事もあるかと思いますが応援しています。

## 第?回スタッフ

岡田 樹代子さん（めんどーさ）  
(当時は福西希代子さん)



現在は講演家、漫画家、ブロガー

### Message:

私はいま大勢の前で話す仕事をしていました、自身でグループの運営などもしていますが、LKでの経験が大いに活かせています。たまたま参加した LKでしたが、多くの実践の場を提供してくれて、今でも感謝しています。また、違った形で LKのような素晴らしい活動の場を再開されることを期待しています！そのときは若者の指導に行きますからぜひ呼んでください（笑）

### ☆1LIVE KIDS とは？

「素敵な想い出」

### Q1 「きっかけ・動機」

新しいことに参加したいと思った

### Q2 「変化・成長したコト」

大勢の前で話すときのいい経験になり、現在の仕事に活かせています。すべての参加者にそういう場を提供してくれていました。最初の頃は本当に緊張しました。LKで何度もそういう経験を積むうちに、自分が難なくそれをできるようになりました。本当に感謝しています。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

私がリーダーの時、その年、過去最高の入場数を作ったのですが、ポスティングなどの数を押しまくって反発を食らったが、記録を作ったことで、最終的に反発を扇動していた子が個人的に謝罪してきた。（その時私は疲れきって舞台裏で倒れていた笑）



### Q4 「大変だった！コト」

スタッフの温度差がめんどくさかったな～笑

### Q5 「期待するコト」

私の時代に思ったことですが、行政？が展開する事業にしては柔らかくできていたんじゃないでしょうか？小嶋さんだったからかな？（笑）歴史を作るというのは、これまでのやり方に不同意する（し続ける）、そいつた周りの不同意の勢力にへし折られないことによって成し遂げられると思う。そういうアイデアを強固に守ってあげられるような力強いチームでの新たな面白い展開に期待します！

## 第6回～サポート含め22回スタッフ 木虎 美江さん（旧姓：酒井）（ねえさん）



現在は社会福祉法人奈良 YMCA の職員

### Message:

長くこのイベントに携わらせていただき、最後の大会に参加できなかったことが心残りです。結婚して子供が産まれて京都から奈良に引っ越して、なかなか皆さんに会う機会がなくなってしまって残念です。また、皆さんで会う機会があればぜひ参加させていただきたいと思います。

### ☆1LIVE KIDS とは？

## 「人とのつながり、世代交流」

### Q1 「きっかけ・動機」

協会担当者からの誘い、及び興味が少しあったため

### Q2 「変化・成長したコト」

新しいことをする事に消極的だったが、新しいことにチャレンジするようになった。年代の違う人と話すことが苦手でしたが、まだ苦手を完全に克服はできていませんが、そんなに苦痛と感じなくなりました。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

遅くまで色々打ち合わせしたこと  
ポスターリーフレットを置いてもらうときに、休みに世代を超えて交流できたこと

### Q4 「大変だった！コト」

パンフレットの製作で、印刷までに時間があまりなくて、ずっとその作業をしていた経験が…。

### Q5 「期待するコト」

また今後、LKのようなイベントをぜひやってほしいです。

## 第8・10回スタッフ 大宅 華奈子さん（旧姓：北野）（かなこ）



ブライダル業界で働きながら、子育て奮闘中です

### Q1 「きっかけ・動機」

高校生当時、将来コンサート業界で仕事をしたいと思っており、高校生でバンドコンテストの企画・製作ができることが魅力的だったため

### Q2 「変化・成長したコト」

LKをきっかけに、皆で一つの目標に向かって何かをやり遂げることの楽しさを知り、自分にとって大事にしたい価値観を形成していく中でとても影響したと思います。また、ご縁でJコンのアルバイトをさせてもらうことになり、高校～大学生の間、アルバイトを通じての社会経験ができたこと、新たな人との出会いを得られたことは自分の成長に大きくつながりました。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

本選に進むバンドの審査をスタッフが行ったこと。素人なのにいいのかな！？って思いながらやったことを覚えています。  
しかも当時は確かテープだった…時代の流れを感じます。

■チラシを置いてもらえる店舗を1軒1軒回ったこと。緊張した。

### Message:

私の青春 LIVE KIDS、ありがとう。  
いつかビデオを見ながら同窓会できたら素敵だな～！

### ☆1LIVE KIDS とは？

## 「10代の青春」

### Q4 「大変だった！コト」

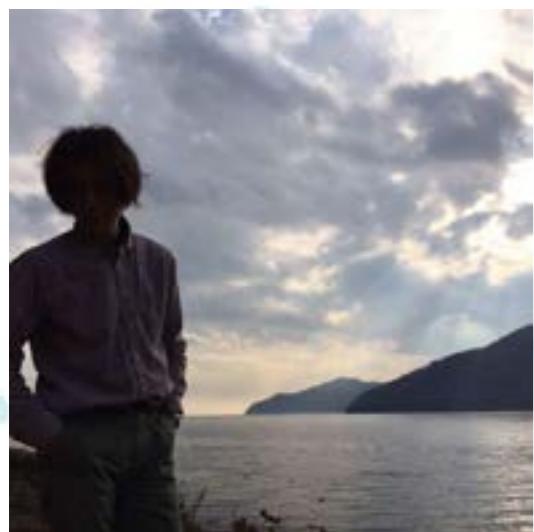
当時はあったんだろうけど、思い出せない…。

### Q5 「期待するコト」

自分が10代の頃と違って、今は人とリアルで深く繋がりたいという若い人が減っているのかな、と感じることがあります、LKで私が得たように、人の出会いから得られる楽しみや幸せってたくさんあるんだよ、ということを伝えていける事業をこれからもお願いします。



## 第10回スタッフ 田口 賢一さん（田口さん）



現在は会社員

### Q1 「きっかけ・動機」

就業している業務の延長上で、若者の皆さんのが夢の実現を目指して成長なされている現場で現実を体験する事、共に事業を成功させるお手伝いを通じて、その様子を記録化する試みから参加しました。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

スタッフとして参加した後に、みんなで反省会と称して、喫茶店で甘いものばかりで打ち上げした事。



### Message:

スタッフの皆さん 30 年間お疲れ様でした。  
LK 事業の見直しは、ある種の折り返し地点です。  
時代は変われども、決して変わらないものがあります。  
それは相互を大切に思う心と自己への自信を勝ち取るべき学びの場です。どうぞ形は変われど、志は変わらない LK を継続してください。

### ☆1LIVE KIDS とは？

「各々の夢の孵化器！」

### Q4 「大変だった！コト」

特になし

### Q5 「期待するコト」

アンケートの前書きにも記述してきましたが、現在は個人でも情報発信が容易に行える環境になってきました。しかし、ネット上でSNSやLINEといった実態を伴わないコミュニケーションへと偏重し、実体験としての人との繋がりが希薄な時代でもあります。スタイル的には古いものですが、目標を掲げて切磋琢磨して活動しながら成長できるLKのような事業は、今後も継続すべきだと思います。



## 第17回スタッフ 足立 陽子さん



現在は首都大学東京ボランティアセンターでボランティアコーディネーター

### Q1 「きっかけ・動機」

担当の職員の方やすでに関わっていたメンバーの方にお誘いいただき、以前から、その方々に、とても楽しくてやりがいがあると聞いていたので、また、実際に観に行ったことがあります。とてもかっこいいステージだったため、自分もそんな素敵なイベントをつくる一員になれたらいなと考えたため。

### Q2 「変化・成長したコト」

社会人になってからの活動だったため、普段は所属等を背負った立場で人と関わることが多いが、所属や立場、年齢など問わず、関わり合い、学び合い、学生等の若い人からも教えてもらうことがたくさんあった。年下の人でも、ベテランの先輩は、すごく頼てかっこよい人がたくさんおられた。また、「音楽やダンスが好き」など、これまで私が他の活動で出会ってきた方々とは少し異なるタイプ？関心の人とも出会えた。イベントをつくっていく同じ目標の中で、これだけ多様な人が自然体で関わり会えたのは、他にはない活動だった。最初は、その個性に戸惑ったが、そういったみんなが意見できる雰囲気やスタイルは、自分の成長にもつながったし、今の仕事でも意識していることである。

また、「こんな点もボランティアスタッフに任されているんだ」というほど、重要な役割を任せられている点にも驚いた。本当の意味でボランティアを信じて任せるというボランティアコーディネーションの重要性を LK の活動を通して実感できました、それは今の仕事にもつながっている。

### ☆1LIVE KIDS とは？

「自然体で個性を認めあえる場」



### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

あまり参加できなくて、迷惑をかけて申し訳なかったという気持ちが強すぎて、あまり思い出せず、申し訳ありません。



### Q5 「期待するコト」

協会の事業の中でも、少し特異？というか、少し違うキラリと光る個性的な事業であった LK がなくなってしまった、残念です。寂しいです。

## 第10回～多数サポート参加スタッフ 齊藤 裕典さん



現在はクリエイティブディレクター

### Q1 「きっかけ・動機」

正直、めちゃめちゃ不純でいた(笑)。私の大学受験の頃にAO入試が始まって、その対策として考えての参加でした。実際は、大学にパスできなかったですが。甘い考への参加でした。

### Q2 「変化・成長したコト」

当時、何もわからない知らない高校生でしたが、イベント(事業)がどのように企画・運営されているか実際に運営しながら学んでいたと思います。今振り返ると、社会ではかなり責任あることを高校生という立場で任せてもらって、貴重な体験をしていたと思います。現在、事業を行なっていますが、高校生でのそのような体験があったからこそ、前に踏み出せたのかと思います。ボランティアメンバーも学生から社会人といった幅広い人が集まり、普通の高校生にはないコミュニティーに参加できたことで、人との関わり方にも大きく影響したかなあと思っています。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

いろいろ苦労したこと・大変だったことはあると思うのですが、正直覚えていません。周りのスタッフやメンバーの方々が良かったので、印象が薄いです。けれども、いろいろ出て行ったように覚えているので、集客が特に大変だったんだろうと思います。

### Q4 「期待するコト」

LIVEKIDSの復活、もしくは新しい形での事業が再開。



ロームシアター京都 サウスホール 12:00 ~ 19:00

地下鉄東西線「東山」駅より徒歩約10分、新幹線「京都」駅より徒歩約10分  
主催：京都府立農業大学校、京都府ユースホスピタル、ロームシアター京都、京都府立図書館、京都府立美術文化振興財團

### Message:

現在、LIVEKIDSがお休み中で少し寂しいですが、LIVEKIDSの復活もしくは新しい形で事業が再開されることを期待しております。

### ☆1LIVE KIDSとは?

## 「交わる点」

### Q1 「きっかけ・動機」

印象に残っているのは、監修していただいているJEUGIAの方々に怒られていたイメージ…しか残っていません。そこまで本気で怒ってもらったことが両親以外になかったなあと思います。

プロの方に、高校生時代に指導してもらう経験って他にはなかつたと思うので思い返すと良い経験をしたと思います。

その他、コーヒーの入れ方など、覚えています。

### Q2 「変化・成長したコト」

当時(高校生)、音楽が好きでラジオのディレクターなどの仕事に憧れていました。またイベントの企画運営が好きで、学園祭で劇やコーラスのスタッフをしていたけれど、もっと本格的なものに携わってみたい、LIVE KIDSスタッフ募集を知って(たぶんポスターだと思います)大喜びで応募しました。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

チームワーク力が培われたと思います。仕事が進めやすくなりました。

### Q4 「期待するコト」

司会をさせてもらった時、下手くそながら必死で喋っている間は大人のスタッフさん達が優しく見守ってくれた。慣れて喋りがうまくなったりに惰性が出てきた途端、真剣に怒られた。自分ではうまくなってきたつもりなのに、気の緩みを見抜かれ「真剣に“場”を作る」ということを教えてもらった。



## 第11・12回スタッフ 松本 香織さん (かおりん)



現在は貿易会社で人事、財務など経営層のアシスタント

### Message:

高校時代に大人の人たちと一緒にスタッフとしてLKに関わったことは、今から考えてもとても良い経験でした。その後の大学、就職活動での大きな自信になったし、“自分がやりたい仕事”を考える時の指針のひとつになったと思います。参加の機会を下さり、支えてくださった協会のみなさん、ありがとうございます！

### ☆1LIVE KIDSとは?

## 「スタッフ、参加者みんなでつくる 2日間のお祭り。 かけがえのない仲間ができる場所。」

### Q1 「きっかけ・動機」

当時(高校生)、音楽が好きでラジオのディレクターなどの仕事に憧れていました。

またイベントの企画運営が好きで、学園祭で劇やコーラスのスタッフをしていたけれど、もっと本格的なものに携わってみたい、LIVE KIDSスタッフ募集を知って(たぶんポスターだと思います)大喜びで応募しました。

### Q2 「変化・成長したコト」

チームワーク力が培われたと思います。仕事が進めやすくなりました。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

司会をさせてもらった時、下手くそながら必死で喋っている間は大人のスタッフさん達が優しく見守ってくれた。慣れて喋りがうまくなったりに惰性が出てきた途端、真剣に怒られた。自分ではうまくなってきたつもりなのに、気の緩みを見抜かれ「真剣に“場”を作る」ということを教えてもらった。

### Q4 「期待するコト」

フライヤー、ポスターを置いてくれるお店を探し、京都はもちろん大阪や奈良など遠方もみんなでクタクタになるまで歩き回った。

お店に飛び込み、交渉などしたことがなく最初はすごく怖かったけど、そうして一生懸命自分たちでプロモーションをしてきたからこそイベント自体や仲間が大好きになり良いものを作れたと思う。

### Q5 「期待するコト」

高校生など若い時に、こういった本気でみんなで協力して何かをつくる経験が出来るのは素晴らしいことだと思います。これからもいろんな機会を若者に提供してあげて欲しいです。

## 第7回スタッフ

### 松岡 秀美さん（よもぎ）



介護福祉士で働いてましたが、現在は休職しています。

#### Q1 「きっかけ・動機」

高校生の頃に参加させて頂きました。

当時は友達に誘ってもらって、私もやりがいがありそう！と思  
い参加しました。

#### Q2 「変化・成長したコト」

仲間ができたことで、ひとつの目標に向かって力を合わせる事  
ができるようになったと思います。あとは、穏やかな性格に少  
しでもなれた事です。

## 第11・14・15・16回スタッフ

### 松村 幸裕子さん（さゆっぺ）



好きなことをして働いています

#### Q1 「きっかけ・動機」

学校にスタッフ募集のポスターが貼ってあり、おもしろそうだ  
と思ったから。

#### Q2 「変化・成長したコト」

いろんな人がいることを知り、意見を聞くこと。自分の力だけ  
ではどうにもできないこと。

#### Message:

高校生の頃の私に、楽しい居場所を与えて下さり、  
ありがとうございました。  
皆さんでつくりあげたライブキッズ本番、とても  
素晴らしい内容になりました！

#### ☆1LIVE KIDS とは？

「歌、ダンスを真剣に  
取り組まれている人達を盛り上げる場」

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

色々な場所に、LK のパンフレットを置かせて頂き歩いた事  
です。寒い日もありましたが、仲間達と行動と一緒にでき楽し  
かったです。

#### Q4 「大変だった！コト」

集まりの会場に行くのが、少し遠かったです。

#### Q5 「期待するコト」

若者が活躍できる場所を、また作ってください^\_^

## 第11回～第14回スタッフ

### 渋谷 智美さん（旧姓：阿部）（あべちゃん）



現在は組織内弁護士

#### Q1 「きっかけ・動機」

きっかけは、駅でチラシをみかけたこと。

動機は、大学以外で何かやってみたいと思っていたこと。  
大学以外の人との出会いを求めていたこと。

#### Q2 「変化・成長したコト」

LKに参加するまでは同じような考え方、環境のひととしか出  
会いがなかったが、非常に多様な年齢、立場、環境(家庭・経  
済環境、学歴等もさまざま)の仲間と一緒に何かに取り組んだ  
ことで、視野が広がった。また、他者を受容することができる  
ようになった。

何かを頑張ったという経験がその後の自信につながった。  
チームづくりの難しさやコツを体で学ぶことができ、社会人に  
なって様々な人とチームで仕事をする上で役立っている。

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

思うようにいかず、三条通でチラシを配りながら泣いてしま  
ったこと。

折り込みのお願いで、京阪神のライブハウスを、ほぼ制覇した  
こと。

幕が上がる一瞬前、ステージ袖の静寂に、すごくどきどきした  
こと。

#### Message:

青春時代に、ライブキッズに出会えて本当によかったです！

#### ☆1LIVE KIDS とは？

「青春」

#### Q4 「大変だった！コト」

個性的な人が多く、また病気や経済状況等、さまざまな困難な  
事情を抱えているメンバーもいて、ちょっとした価値観の違い  
などから激しい喧嘩が起きることもあり、どのようにすれば同  
じ方向を向いて楽しくイベントができるのか悩んだこと。

#### Q5 「期待するコト」

事業内容は時代に応じて変えていくべきだと思いますが、私が安  
心して活動に参加でき、成長できたのは貴協会の事務局や協力  
会社の方々(おとな)が我々若者に、適度におおらかに関係して  
くださり、かつ後方でしっかり支えてくださっていたからだと  
思います。ぜひ人材育成や、職員の皆様が長く安心してお仕事  
をできる環境づくりに力を入れていただき長期継続的に事業を  
続けていただければと思います。

LKに参加した仲間は、その後いろんな分野で夢をかなえた人  
が多いように思います。若者が夢を見つける手助けをするよ  
うな事業を展開してください。

#### Message:

ほんまいんなことがあったし、喧嘩したり、ぶつ  
かりあったこともいい経験やったなーと思います。  
LIVE KIDS での経験が今も生きていると思います。

#### ☆1LIVE KIDS とは？

「青春」

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

松野さんに物申す時間：ワーカーのやり方に対して、自分た  
ちはこう思っているということをぶつけたこと

#### Q4 「大変だった！コト」

やめていく人たちを説得すること

#### Q5 「期待するコト」

一つのハコやイベントを続けていくことではなく、その時代  
の若者のニーズに応じて、地域が取り組んでいないものに取  
り組んでもらえれば。

## 第12・14回(第13回はサポート)スタッフ

### 藤村 周子さん(しゅうこ)



現在はフリーアナウンサー

#### Message:

ライブキッズのスタッフを卒業後、放送の仕事に就いて10年以上になりました。番組作りはコミュニケーションの連続。特に私はインタビュー取材をすることが多いので、会話力が必要です。いいテンポで会話を続け、面白い話を引き出すためには、相手の気持ちや立場を想像することがとても大切だと痛感しています。この想像力は、生の人間同士の関わりによって培われるのではないかでしょうか。私の基礎は、ライブキッズで本音でぶつかり合える仲間に出会えたことで作られました。当時はしんどかったことも、振り返れば全て楽しかった!これからの方たちにも、こういう場があったらいいなと思います。

#### Q1 「きっかけ・動機」

10代の頃から「将来はラジオの喋り手か制作をやりたい」という志望があったため、ラジオや音楽と繋がれる場所を探していました。また、中学・高校の生徒会活動で学園祭の運営を中心メンバーとして行っていた為、イベント制作も好きで、もっと大きなイベントを作りたいという思いもありました。そんな折、大学にLKのポスターが貼ってあるのを見つけ、応募しました。実は高校時代に観客としてLKを見に行ったことがあったので、スタッフとしての活動がイメージしやすかったことや、「αステーション後援」という文字があったことも、応募の決め手でした。

#### Q2 「変化・成長したコト」

多世代と交流できたことで、グループの中での自分の立ち位置を再認識した気がします。これまで学校では、まとめ役や調整役になる機会が多くたですが、LKでは特に目立った発言はしていませんでした。しかし、はじめて参加した合宿で、まだ知り合って間もない事務局の方々から「サブチーフに指名したい」と声をかけていただき、強いリーダーシップで引っ張るタイプではないけれど、色んな立場の人の意見を聞いて、ゆるやかに舵を切るのが私の役割なのだと認識しました。

2回目の参加ではチーフになり、「意欲はあるけれど精神面、体力面で不安がある」「ノリで参加したけれど責任のある役割は苦手…」など様々なタイプのメンバーと活動し、穏やかなだけではまとめきれない場面も多々ありました。感情的になり、「短気で自分の意見を通そうとする」という今まで知らなかつた自分の隠れた性格も知りました。この経験から、グループの中にはいろんな性格、事情を持った人がいて、だからこそ面白いアイディアが出ることを知り、自分の意見ばかりが正しいと思うのではなく、他の人のいいところを認めることができるようになったと思います。

#### ☆1LIVE KIDSとは?

### 「人と関わる濃密な時間」

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

開催プロモーション班だったので、色々なライブハウス、お店にチラシを置いていただけるようにお願いして回るのが楽しかったのを覚えています。

当時まだ珍しかったインターネットができるカフェで、オーナーさんから「君たちは感じがいいから置いてあげるよ。ついでにうちにバイトしない?」とスカウトしていただいたこともあります。

宛もなくウロウロしていたら、ラジオの公開生放送(出待ちしているリスナーの悩み事を解決します!というコーナー)に遭遇し、パーソナリティの芸人に「そのポスター持ってる子たち、悩んでるんやろ!告知していいよ」と言っていただき、ラジオに飛び入り出演してしまったこともあります。

はじめて開催した新風館でのダンス部門予選。当日、同じセクションのメンバーが遅刻してきたこと。

全然悪びれる様子がなく、穏やかだと思われていた(であろう)私、この日を境にキレました(笑)

ずっと一緒にプロモーションしてきた「どら」がミュージック部門の司会で舞台に立ち、自分のことより嬉しかったです。

#### Q4 「大変だった!コト」

滋賀の実家から通っていた為、他のメンバーに比べて終電の時間が早かったり、前年の入賞バンドを取りに行く際には高額な交通費がかかったりして苦労しました。バイトで貯めたお金を全部交通費に使ってしまい、金欠になったことも。失敗した分、いまでは時間やお金の管理にはシビアになり、成長したと思います(笑)!

## 第12・13・14回スタッフ

### 杉田 ちえみさん(ちえみ)



現在は番組制作

#### Message:

ライブキッズに関わってよかったです。色々な年代、職、立場の方とお話し出来たり、自分の興味があったイベントが開催されるまでの裏側と一緒に手伝う事が出来たり、一生付き合う事が出来る仲間に出会えたり、いい思い出がたくさんです。ありがとうございました。

#### ☆1LIVE KIDSとは?

### 「青春のひとかけら」

#### Q4 「大変だった!コト」

- (1)始めた時は学校と部活の両立て全然参加できなくてついていけなかった事
- (2)お客様集めのプロモーション

#### Q5 「期待するコト」

それぞれの方の人生をイメージ出来るお手伝いが出来る場所になればいいなと思います。



## 第12・14・15～(サポート含む)・25回スタッフ 奥村 啓介さん(オクムラ、ぽーる)



現在は一般企業にてサラリーマン、  
時々イベントスタッフ /PA 係

### Message:

僕もなんやかんやで毎回、楽しんで参加しています。  
今もこうやってつながってられる、そういう関係とかチームっていうのか、連帯感とか。  
そういう(有意識 or 無意識問わず)アットホームなファミリー感を創出していくださってる空気感こそが最大の魅力であり、他事業や団体(オシゴト)では成し得ない部分ではないでしょうか?  
興行屋としてシンプルに、【すぐれた技術屋だけ】欲しければ、力ねさえ払えばそれらを実現はできますからね。でもそれだけじゃない、【そこ】じゃない部分にドラマがあったり人間模様が垣間見られ。5年10年後にまた、成長して活躍の場を得たスタッフがOBとして帰ってきて関わる、、、やはり人間育成の場であり、貴協会にしかできないオリジナル事業などと、僕は思っています。  
人間形成 / 育成の場を、仮に【音楽イベントを通してやってみてはどうか?】という【手段】で始められた事業、と勝手に理解してます、  
楽しいことばっかりじゃないけど、【やって良かった!】と思える成果がそこにはあります。自分の次のステップに、その後の人間関係の構築に、大きく寄与してくれる経験ができました。  
【ボランティアスタッフ】という言葉の枠では表現しきれない、人間力の学びの場である。

### Q1 「きっかけ・動機」

第9回大会へ出演していた経緯もあり、また初めて参加したのは自分自身楽器 / 舞台制作の専門学校へ通っていた時期でもあり、何らか裏方仕事への興味が大きく、現場仕事に関わりたいと考えたものと推察される。

→【人・社会に役立つためにボランティア活動を】という心理でなかったのは確かですね。どちらか言うと、自分のために、という意識が強かったと思います。

### Q2 「変化・成長したコト」

自分の場合では、特にステージまわりの担当をすることが多く、(当時)専門学校でのステージ制作イベント(研修)現場、その後勤めた楽器店でのインストアイベント等行う際にも技術・知識の点で非常に有利であった。

後年、各種他団体イベントのスタッフとして運営に関わったり、現場仕切りなどする際にも過去の経験からその要領を身につけたと感じる。機材知識や、舞台屋としての心構え(小林さん・中西さん)を身につけたと思う。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

スタッフ同士が家族のように接し合い、イベント終了後も息の長い仲間として成立している。

- ・26時まで高辻でミーティング(周子)
- ・(スタッフ同士で勝手に笑)深夜プロモーション

### ☆1LIVE KIDS とは?

## 「家族兄弟、絆、チーム一体感」

### Q4 「大変だった!コト」

人それぞれが自分の信念に基づいて行動・発言しているんだということに気付かされた。大人数のチーム組織で活動する難しさ(ちょっとした思想・信念の違いから意見が割れる)。  
→みんながそれぞれ自分なりの意思・意見を持って、集まっているんだと認識させられる。

12回大会?当日未明に大林がバイクで事故る。

### Q5 「期待するコト」

「継続は力なり」の言葉通り、従前より蓄積された経験や人間関係を土台に、今後も事業継続いただくことに期待します。

それら幾十の実体験を経て、

いま現在も私は楽しく生活しているのである。

## 第14・15回スタッフ 彦坂 將文さん(ヒコ)



現在は機器・設備の営業

### Q1 「きっかけ・動機」

LK の存在を知ったのは大学1回生の夏でした。(わざわざ)浪人して名古屋から京都の大学に来たものの授業の内容に辟易し、大学でまだサークルや友人など居場所を見つけていない夏休みの時でした。「とにかく何かしたい!」「自分が興味ある分野で仲間がほしい!」ということで Radio CAFÉ(結局最初から最後まではじめないまま)に参加する中で、どこかの施設で LK のポスターをみたのがきっかけでした。ラジオや音楽好きというのが主な理由で、自分が社会学部ということもあってメディアにも興味があり、映像編集などもできたらかっこいいし、面白そうという単純な好奇心が一番にあったと思います。

### Q2 「変化・成長したコト」

一番はコミュニケーション能力でしょうか(35近くなった今もまだまだですが)。多様性への受け入れ能力というか。もちろん当時は私も20前後のあまあまなので、年齢や考え方方が違う人間に対し、嫌いなどと思う人がいたり、目上や色々な立場の方への礼儀などなく怒られたりすることもありました。ただ、そんな中で仲間ができたり、何かを成し遂げたり、なにより2年間その多様性の空間から逃げずにそこにいつづけたことで、大学生にしては人間関係やコミュニケーションに強くなったりと思います。

例えば、知らないイカつい(笑)ダンサーに声かけて出演交渉したり、大企業で働くスタッフにフラットに話すなんて、当時の学生ではあまりできないことですよね。おかげで社会人になってからはずっと営業ですが、知らない人と知らない事を話すことなんら苦には感じず、そこを楽しめているのは LK の経験もあったからかもしれません。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

特別「これだ!」っていうエピソードは特ないですが、2年間やってみて印象に思ったことはイベント・大会当日ってなんか「おまけ」って感じだという印象を今でも持っています。大会当日を成功させるために頑張ってるはずなのに変な話ですが。私はどちらかというと気の合うメンバーとキャッキヤいいながらプロモで色んなところ回るのが好きでしたので、その時はずっと楽しかった気がします。さすがに深夜路上で練習しているイカついダンサーの人に「大会のイベントのレベル知るには誘ってくるお前がまず踊ってみろ。」と言われた時はかなり焦りましたが、今では楽しい思い出の一つです。

### Message:

小嶋さんをはじめ、YS協会の皆様には本当にお世話をになりました。お調子者の私の非礼や失言もあったかと思いますが、暖かく接して頂いたことに感謝致します。ちなみに現在愛知県名古屋市在住ですが、名古屋にもこういったYS協会のような協会はないのでしょうか?あれば知人や親戚の子などに紹介したいなあと思ったこともあります。よければご検討ください笑。

また京都に遊びに行った時は顔を出しますのでよろしくお願い致します。同窓会も期待して待ってますね。

### ☆1LIVE KIDS とは?

「自発的に自分から何かする、何かを楽しむ気持ちがあるなら、どれだけでもやって、そういうのを許してくれる場所」

### Q4 「大変だった!コト」

もう時がだいぶ流れているので、ほとんどよい思い出しか残っていないのですが、しいて言うなら他のスタッフのプロモ参加率をあげることに苦労した気がします。どれだけ良い映像やパンフを用意しても当日参加する出演者やお客様が LK を知らない意味ないので、プロモが一番の基本活動であると考えておりました。ただ、ボランティア活動の難しいところってスタッフ同士何か強制するものではなく、あくまで自発性ですから、どうやったら一緒に来てくれるだろうとかそれなりに当時悩んでいたと思います。当時はとにかく自分が楽しくプロモをやる姿をみせるしかありませんでした。

### Q5 「期待するコト」

やはり大学生や高校生、これからの方者が自発的に行動できる場所などの提供サポートを期待したいです。私は同時にアルバイトや大学内でのバドミントンサークルなどもやっていましたが、LK という大学だけにとられず、また賃金の発生する労働ではない環境でこそ得られる難しさや面白さがある活動を通じて多少なりとも成長できたと思います。LK に参加することで、他の活動も客観的にみることもでき、うまく廻り出した感覚もあります。1回生当時の私のように居場所もなく、何もしないでダラッとしている若者に少しでも何か行動するきっかけを与えてくれることを期待します。

## 第15~17回スタッフ

### 石郷岡 理恵さん（インディ もしくは しいちゃん）



現在はイベント会社に勤務  
※オクトーバーフェストや飲食店関係

#### Q1 「きっかけ・動機」

イベント作りやダンスに興味があり、当時通っていた大学でボランティアスタッフ募集のチラシを見つけ、やってみたいと思い参加しました。

#### Q2 「変化・成長したコト」

イベント作りの一部を経験させていただいたことにより、イベント作りの難しさや楽しさを知りました。私の場合は、本番が終わった後も、他にもっと色々なことができたのではないかと、達成感というよりかは嬉しい感情が強かった気がします。LKを通じてもっといろんなイベントを勉強したいと思うようになり、そして、イベントを通じて誰かを感動させたり楽しめたりできるような仕事に携わりたいと思い、現在はイベント会社に勤務しています。

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

あまり、大きな声で言えませんが、街の各施設（ダンス教室や音楽教室や楽器屋さんなど）にLKのチラシを配り歩いていた時、チラシが置いてもらえた施設だと思って入ったところが、どうやら普通の民家に不法侵入してしまっていたようで、慌てて飛び出したこと。

ミーティングの終了時間が遅くなつた時、小嶋さんによく送ってもらったこと。ありがとうございました。

#### Q4 「大変だった！コト」

スタッフみんなのLKに参加した目的やきっかけが違うので、立ち位置、モチベーションも違います。みんなそれぞれの個性を把握して、まとめるのは大変だと感じました。でも結局は、まとめてもらおうがないので、あくまでもボランティアなので、それが楽しんでやれるだけのことやろう！というスタンスだった気がします…。

**Message:**  
**To be reborn LIVE KIDS!!**

☆1LIVE KIDSとは？

**「輪（つながりの場所）  
熱（ねつ）」**

#### Q5 「期待するコト」

期待する事＝「変化と継続」

冒頭に記載していただいた、事業ストップの理由↓

京都市の担当局の再編、当協会の組織再編（若い世代へ組織運営の移行等）や、また「アマチュアダンスグループの数は大幅に増え、発表・交流・コンテストの機会は拡大し、ミュージックも含め学校・路上・野外フェス、WEBやメディアでの発信等多岐にわたり発展している中、当協会が開催する意味と必要性が薄らいでいる」という内部評価を受けたことに依るものです。

は理解できるのですが、運営ボランティアスタッフとして参加した私の目線では

「青少年の表現活動を応援しよう！発表の場所をつくろう！」の中には「出演者」だけでなく、関わる運営ボランティアスタッフ（青少年）の活動・成長のきっかけづくりも大きく含まれているかと思っています。開催する意味の重き（ポイント）、方向性、協会としてなぜ続けたいのか、何がやりたいのか、何をすべきなのかを今一度、交通整理して再構築してみてはいかがと思いました。極端なことを言いますとダンスと音楽のイベントでなくても良くて、今までのノウハウや人のつながりを生かしてできる事業は他にもあるような気はします。

私が参加していた時代、約10~15年前は、学校には行けないけどLKには参加していた子（LKだから友達ができる）もたくさんいました。居場所を作り続けるだけでも大きな意味はあると思います。

あくまでも「ボランティア」なので、本気にもなれるし中途半端になる場合もあるかと思いますが…。

限られた予算の中でこれだけのイベントを長きに渡って続けてきた実績は本当にすごいことだと思います。一人一人の想いがあって繋がってきたことなので今後も是非続けていって欲しいと願っています。

あとは、協会の方が頑張りすぎて疲れてしまうことがないことを切に願います。

### 第15回スタッフ 木村 智子さん（ともちゃん）



現在は外国につながる子どもたちの教育相談事業

#### Q1 「きっかけ・動機」

ボランティアと音楽に興味があったところ、市民しんぶんで募集を見つけて説明会に参加、そのままスタッフに。

#### Q2 「変化・成長したコト」

人見知りが強く内向的だったが、外交的な面も出るようになった。（プロモで意外と知らない人にガンガン話しかけていて、他のスタッフから、智ちゃん物怖じせず行くなー！と言われた記憶があります。今までの自分を知らない人ばかりだから、今までと違う自分の側面を出しやすかったのかも？）

一緒にスタッフをしていた方から、自分が大学生になった時に活動にお声掛けいただき、その後もなんやかんや市民活動や、自分で企画する活動に関わるようになった。

（LK参加時は高校一年生）

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

同じ高校生でも、すでにアルバイトを経験していて接客慣れしている（出演者対応に慣れている）子がいてすごいなあと思った。色々な働き方、生き方をしている人がいるのだなあと肌で感じた。周りの人の恋模様が垣間見られた（女子校だったので特に新鮮に感じられたのかもしれません）。



**Message:**  
私にとってのLIVE KIDSは10代の転換点で、自分の中の新たな一面を開いてくれる場だったと思ひます。  
ありがとうございました！また新しいニーズに応じた事業を育てていかれるのを応援しています！

☆1LIVE KIDSとは？

**「多世代ごちゃまぜプロジェクト」**

#### Q4 「大変だった！コト」

高校生ということもあり、マネジメントに関しては全く考えずのびのびやらせてもらっていたと思います。横浜（YHMF）に連れて行っていただいたが、現地の都会の高校生に全然馴染めず申し訳ない気持ちでした。

#### Q5 「期待するコト」

ユースワークやユースサービスという概念は、まだ馴染みが薄い（肌感覚ですが）と思うので、発信を続けていただきたいです。大学との連携研究や他府県へのスケールアウトに期待しています。

このアンケートもその一つになりうるかと思いますが、ユースサービスにかかる事業の効果測定＆結果の発信、大事だと思います。

サポステに関しては大阪府のハローライフさんがおもしろい（見せ方がうまい？そして一度説明会に行きましたが、中の人もとても熱かったです）と思うので、なにかしら知恵を交換できるとよさそう、とお節介ながら思いました。



## 第15回スタッフ

### 田中 美佳さん（こっちゃん）



現在は会社員

#### Q1 「きっかけ・動機」

チラシを見たのと、友人の誘い。

#### Q2 「変化・成長したコト」

チームワークで活動する楽しさや、その成果の大きさを体感し、チームワークで仕事することが楽しいと思うようになった。

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

プロモーションでその日集まったメンバーでプロモーションをやったあと行ったことがないところを目指して京北町まで行ってしまったこと。

## 第15・16回スタッフ

### 津村 美帆さん（みほ）



現在は主婦

#### Q1 「きっかけ・動機」

コンテストの裏側を体験してみたかった。

#### Q2 「変化・成長したコト」

行動力がついた。

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

大変だけど、大変なのが楽しかった。

#### Message:

あの頃のみんなへ  
楽しい時間をありがとう！一生懸命みんなと一つの  
大きなイベントをできてよかったです。

#### ☆1LIVE KIDS とは？

### 「本気の遊び」

#### Q4 「大変だった！コト」

準備の中盤で疲れて衝突が増えたこと。みんな一生懸命なんだけど注げる時間と力の違いを理解するのに時間がかかった

#### Q5 「期待するコト」

LKのような人の居場所や一生懸命になれる場所を期待します。

## 第18・19・20回スタッフ

### 太田 愛実さん（旧姓：村木）（むらき）



現在は小売業会社員

#### Message:

貴重な経験ができて、感謝しております。

#### ☆1LIVE KIDS とは？

### 「仲間。チームワーク。」

#### Q4 「大変だった！コト」

#### Q5 「期待するコト」

#### Message:

不純な動機ではじめましたが、LKを経験して本当によかったです。自分の人生の中で数少ない成功体験を得ることができました。10年以上たった今でも忘れない思い出です。何が一番とかなくて。このアンケートを書きながらいろんなことが頭の中でフラッシュバックしています。めっちゃ寒い時期に山の中でやった合宿もいい思い出です笑。LKが終わってしまうのは寂しい思いでいっぱいですが、今後の活動に期待しています。願わくば、また関わることができますように。

#### ☆1LIVE KIDS とは？

### 「青春（笑）。」

全力でぶつかりあって、理解しあって、失敗を繰り返しながら忘れがたい経験になる、みたいな。

#### Q4 「大変だった！コト」

ビラ配り！夜遅くに別のスタッフと車で繰り出し、ありとあらゆるマンションにビラを投函したのは大変でした。寒かったですし。笑

#### Q5 「期待するコト」

自分で考え、行動し、結果を得られるような経験をさせてあげてほしいです。誰かに言われるがままではなく、「自分がどうしたいのか」を考えれるような。そういう意味で長期のイベントスタッフは自主性も必要だし、協調性・社会性も養われる所以で本当にいい経験になったと思います。

## 第20回スタッフ 大谷 麻予さん（まよ）



現在は地域福祉に関わる仕事

### Q1 「きっかけ・動機」

当時大学2年生の私は、色々な活動をして、学びながら視野を広げたいと思っていました。友人が先にLKで活動をしていて、音楽やダンスのイベントで、出演者、観客、裏方みんなで何か作り上げる点に魅力を感じ、参加しました。

### Q2 「変化・成長したコト」

物事の見え方が変わりました。LK当日を迎えるにあたり、広報・業者や大学との調整・当日のプログラム作り・司会準備・会場設営・音響・照明・アンケート作成等、沢山の役割があり、それぞれが自分のポジションで役割を果たすことで、結果として、1つのイベントが作り上げられるということを、自身も当事者の一人として実感できたと思うことは大きいです。アンケートの作成の仕方は今でも仕事等で活かしています。（アンケートの質問を通じて、知ってもらいたい活動を知ってもらう等）音響での経験は、どのような曲で、どのタイミングで、どのようなボリュームで流すのか、という考え方や、ワークショップを開催する際に役立っています。イベントや仕事等において、目の前の物事は、沢山の人が協力して出来あがっている。そうした、華やかさの裏側にある地道さについてみることを意識できるようになりましたし、今仕事で企画をする際、役割を分担する際にそうした考え方を取り入れなら実践できたりします。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

全体：多様な年代やバックボーンの人がいらっしゃったこと、個々を尊重して大人扱いしてくれた気がします。あとは2にも書きましたが、やはり当日に、それぞれのがんばりが統合されていったところが一番ですかね。

部分：音響担当で、沢山の音楽を当日の場面をイメージしながら一生懸命選んだこと。  
与えられた役割の中で一生懸命やることで、自分だけの興味では出逢わなかつたようなコト・ヒトに出会える。（自分の興味だけでは出逢わない音楽、音響の業者の方）

### Message:

先日、偶然すぎる職員さんとの再会があり、LKの懐かし思い出や今のこと語りました。楽しかったあ～♪  
また再会をきっかけに、アンケートという形で、当時を振りかえる機会をいただきました。あっという間に8年の時を経て、改めて振りかえると、活動の中での、担った業務、メンバーや職員さんから教えてもらったこと、発見してもらった良さ等が、自分にしみこんでいて、今の暮らしを彩ってくれているように思います。あれだけ毎日のように集まり、活動していたメンバーも、今はそれぞれ活躍する場所も多様でなかなか会えません。でも、ふとした時に当時を思い出したり、偶然の再会があったり…この縁は、これからもそんな風に、時に素敵な思い出として、時に今を生きる原動力として続けていくのかなと思っています。そんなゆるやかな繋がりを持つことに感謝しつつ、これからもがんばります！ありがとうございました！

## 第21回スタッフ 箭内 智美さん（せんちゃん）



現在は自営業（講師・コンサル・セミナールーム運営）

### ☆1LIVE KIDS とは？

## 「Like（イイネ！）がK（かなり） 見つかる場所！」

お互いのいい所を発見し合いながら、適材適所で活動出来た、私にとって居心地のいい楽しい場所でした。

### Q4 「大変だった！コト」

あんまり覚えてないのですが、間に挟まれて、人間関係の調整があったような気がします（笑）それぞれの言い分を聞きつつも、中立的な立場で、当日に向けてやることをやっていた気がします。

当時も今もそうなのですが、間に立って、どの人とも、特に対立することなく、むしろ悩みを聞きつつ、良さを発見しながら楽しくやっていけるところが自分の強みなのかなと…これを書いていて思いました。自己発見できました！ありがとうございます。

### Q5 「期待するコト」

学生や社会人、年齢や立場が違う中でも、個々を尊重しながら、良さを発見しながら、対等に関わってくださる職員の方がいらっしゃること、こうしたスタンスが活動しているスタッフにも涵養されていること、若い行動力、パワーがあることがとても強みだと思います！

すでにされている部分もあるかとは思いますが、ユースの枠を超えて多世代の分野、地域の課題ややりたいことにもどんどん入ってHUB的な存在となり、さらに地域を元気にしてほしいです！

（特に高齢分野の地域活動では担い手不足等の課題もあると思いますので、若い活力が必要だと思います。ぜひ機会があればそうしたところにどんどん飛び込んでいってほしいですね。）

### Message:

舞台に立つ方も、舞台を支える方も、必ず得られるものがある場所。  
大きな会場で、本気の想いを伝えられる場は、人生の中で多くはありません。  
感謝をしています。今後も、多くの方々と共にLKが盛り上がり、継続していくことを心よりお祈り申し上げます。

### ☆1LIVE KIDS とは？

## 「ワクワクできる場所」

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

喧嘩するくらい、本気でイベントについて話し合っているメンバーの姿。

LK当日に、会場を走り回っている中、こんな走り回らないといけないくらい広い会場の運営をしているなんて、考えてもみなかったなあと感動したこと。

### Q4 「大変だった！コト」

仕事をしながらのスタッフだったので、なかなかミーティングなどに参加できなかったこともあって申し訳なかったなど…。

### Q5 「期待するコト」

スタッフ側にも、たくさんの感動や学びがあるので、ぜひ継続して欲しいなと存じます。



## 第21回スタッフ 大西 遼さん（らいよん）



現在は音響機器メーカーにて営業

### Q1 「きっかけ・動機」

私が参加させて頂いたのは、大学2年生自分の頃です。バイト・サークル活動に明け暮れる毎日でしたが、何か人と違う変わったことがしたいと思ったのがきっかけです。当時、音楽（特に邦ロック）がとても好きで、自分は楽器が弾けないが何か音に携わりたいと思っていた最中、チラシでLKを見つけました。

### Q2 「変化・成長したコト」

周りの人に流されることが多く、あまり人前で主張をして来なかっただ私ですが、今まで関わることのなかった社会人・学生等多様な方と出会い接することで、自分の想いを伝える事の大切さ・むずかしさを学びました。この心境の変化が、後の就職活動・社会人になってからも強く生かされております。

また、LKでの活動は今の仕事にも直接影響しており、音への興味が高まり「音に携わる仕事がしたい」と強く志すようになりました。現在は、音響機器メーカーにて日々働いております。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

チラシの配布・協賛を得るための活動・現場での舞台転換・準備など思い返せばたくさんございますが最も印象に残っていることは、ラジオ出演をさせて頂いたことです。

間近でラジオパーソナリティの方のプロのトークに触れることができ、メディアを伝って想いを伝えるという経験が出来たことは、忘れることが出来ません。

☆1LIVE KIDS とは?  
**「自分の感受性を  
豊かにしてくれる場所」**



### Q4 「大変だった！コト」

印象に残っていることは、本番当日の作業についてです。私は、舞台転換の役割を担っておりましたが、慣れない作業で緊張したのを良く覚えています。LKの醍醐味であるダンスと楽器演奏の舞台を短時間で切り替える作業は、緊張しましたがスピーディかつ的確に動かれている現場のプロの方と一緒に働けたのは、良い思い出です。

### Q5 「期待するコト」

未来ある子どもたちの夢を育てる場所であり続けることを願います。形は違えど、子どもたちがしてきた努力をアウトプットできる環境を作り続けていただければと存じます。



## 第21・22回スタッフ 白崎 輝美さん（てるてる）



現在はホテル開発・運営

### Q1 「きっかけ・動機」

αステーションのCMを見て。イベント運営に興味がありました。

### Q2 「変化・成長したコト」

チームワーク力が培われたと思います。仕事が進めやすくなりました。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

人を纏めるのは難しかった。特に、会社じゃない色々な立場の方と協力して動いていくのは難しいですね。プロのDJさんと司会させて貰えたこと。広告営業を経験し、お金を集める難しさを感じました。

### Q4 「大変だった！コト」

会社ではないからこそ、スタッフの皆さんとの接し方は難しかったです。皆に同じように指示を出せば動いてもらえるわけではないからです。

話すときは同じ目線。どんな態度をとられても、同じ目線で捉えない。今も人を纏める仕事をしていますが、会社以外でも人間関係を上手くまわしていく基本は同じだと感じています。



### Message:

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。青少年の頃抱いていた夢と別の仕事をしておりますが、LKでの経験を含め、青少年時代に全力で取り組んで成功したり失敗してきたことが今の生活に活きていると感じています。今後の人生も学ばせて頂いた事を糧に、実りあるものになるようにしていきたいです。

☆1LIVE KIDS とは?  
**「仲間作り」**

### Q5 「期待するコト」

これからも青少年の「居場所」であってほしいと思います。子育て最中の友人が増えてきた中で感じるのは、集団生活の協調性は家庭生活では身に付きにくいと思います。また、学校で集団生活につまずく子も居ると思います。

学校という狭い場所で失敗しても、人生は終わりじゃない。他にも居場所があるって事を感じてほしい。学校で出来ない経験をしてそれを自分のこれから的人生の自信にするのも良いと思います。

バーで隣に居合わせた既婚者のサラリーマンが「会社から家に帰る合間に一息にバーを使っている。」と言っていたのが印象的です。カフェや居酒屋などの飲食店もそうだと思いません。皆、生活に満足していてもそうでなくとも家以外に居場所が欲しかったりするのかもしれません。

それは青少年でも同じかもしれない感じます。

## 第21回スタッフ 黒川 夏子さん（なつこ）



現在は社会福祉士

### Message:

未熟ながらも楽しませてもらったことを覚えています。  
LKに関わられたこと、そこで出会えた仲間に感謝します。  
2011年度のジャンパー、今でも大切に残しています♡

### Q1 「きっかけ・動機」

私がLKに参加したのは大学4回生の頃でした。当時、就職も決まっていませんでしたが、大学生という時期にこれまで出来なかった「仲間づくり」ができたなら良いなという気持ちで参加しました。イベントのスタッフという珍しいボランティアにも惹かれました。

### Q2 「変化・成長したコト」

2011年開催のLKに参加しましたが、数年経った今でも当時の職員の方々、共に活動したスタッフと良い関係が続いています。参加者だけではなく、スタッフ（ボランティア）も成長・経験させてくれる良い機会をえていたいと思っています。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

グループごとで活動しました。ライブスタジオへ広報しに行くなど、初の体験でした。私は音楽に疎いですが、特に支障はなく、仲間と共に活動できることができたことが楽しかったです。

## 第22・23回スタッフ 笹倉 三奈さん（くらら）



現在は千葉県にて公立小学校教諭

### Message:

協会の30周年おめでとうございます。また、LIVE KIDSに関わらせていただき、本当にありがとうございました。  
LKスタッフとして活動していた日々は、今思い出すと（稚拙な言動をしてしまったこともあります）いつも一生懸命だったと感じています。大きなステージで司会をしたり、機材を運んだり、たくさんの仲間と関わったり、LKでしかできない経験をさせていただきました。これらをこれから糧にしていきたいです。

## 第21回スタッフ 田畠 優樹さん（ティビティ）



現在は公務員

### Message:

素晴らしい出会いをありがとうございました。イベントと一緒に成功させた仲間にまた会えるのを楽しみにしています！

### ☆1LIVE KIDS とは？

## 「青春そのもの」

### Q1 「きっかけ・動機」

高校時代の先輩から誘われて

### Q2 「変化・成長したコト」

LK大会のスポンサー やチラシを掲示してくれる店を募集するグループとして活動し、より積極的に初対面の人と話せるようになった。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

エンディングで演者とスタッフがステージに登り合唱した際、自然と涙が出てきて、本当に感動した。

### Q4 「大変だった！コト」

活動しているときは一つ一つの作業が大変であったが、今となってはそれもいい思い出です。

### Q5 「期待するコト」

LKは若者中心の活動であり、今後もそれを期待していますが、社会人となったOBOGも積極的にイベントに誘って欲しいです。

### ☆1LIVE KIDS とは？

## 「繋がり」

LKがあって、スタッフ、事務局さん、出演者、来場者、チラシ配りで会った人など、いろんな人の出会いがあった。社会と繋がることが少しでもできたかと思う。

### Q1 「きっかけ・動機」

大学生になり毎日変化を求めていた。何か目標を持ってできることや熱中できること、またそれらを一緒になって取り組める仲間と出会いたと考えていた時に、大学の授業でLKを担当しているユースワーカーさんの話を聞いたため。

### Q2 「変化・成長したコト」

大きなステージで司会をさせていただいたので、自ずと自信につながった。（今では常に人に前に立つ仕事をしています。）  
自分の役割に責任を持つこと。自分の言動が、出演・来場者の皆様に与えてしまう影響を知った時、身が引き締まる思いがした。  
(せりふや行動など一言一句を意識して台本を作りました。)

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

ステージで客席に背を向けてしまった時、いろんな方から叱られた。自分の「やりたい」「楽しい」感情だけで動くのではなく、「見られている」という意識やスタッフとしての責任感が足りなかつた感じた。

新風館でイベントをした時、出演者の方とお話がけて、こうやっていろんな人たちとイベントを創り上げているんだと感じた。  
LK23で自分たちが作ったエンドロールが流れた時、作るまでの苦労はあったけど、やりきって良かったと感じた。

### Q4 「大変だった！コト」

司会をしていた時は、自分の語彙の少なさに何度も悩んだ。  
α-stationの西田さんに何度もお世話になりました。

台本作り。司会の言葉だけでなく、音響のIN/OUT、映像、舞台転換の動きなど、ステージ全体の動きを把握する必要があった。

### Q5 「期待するコト」

これからも、ぜひ青少年の活動支援を続けてほしいと考えております。

LKは体験も人との出会いも本当に貴重な場でした。

(京都から離れて、同じようにボランティアや経験できる場を探しているのですが、なかなかみつからず…。)

本当にセンターは貴重な場だったと感じています。)

## 第23回スタッフ 渡辺 亮さん（なべぞう）



現在は介護職

### Q2 「変化・成長したコト」

ボランティアでも責任を感じながら物事に取組めていること。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

エンディングのところで、スタッフも出演者も笑顔で終わっていたこと。

### Message:

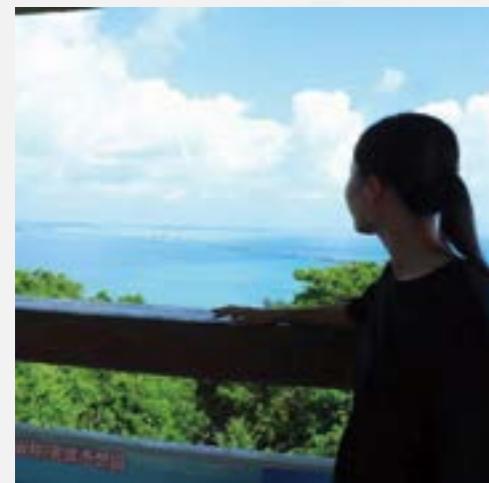
このような大きなイベントにボランティアスタッフとして参加できて、とても楽しかったです。他のボランティア活動にLKで経験したことが活きています。このイベントに関われて本当によかったです。

### ☆1LIVE KIDSとは？

## 「出演者・スタッフともに輝ける場所」



## 第24回スタッフ 安藤 実帆さん（旧姓：伊名岡）（いなみー）



現在は教育関係

### Q2 「変化・成長したコト」

仲間とぶつかり、意見が食い違った時に、センターの職員さんに話を聞いてもらったことで、自分の思いをぶつけられるようになった。「逃げずにやってみる」と言う経験が、今の仕事をするきっかけになったと思います。

### Message:

LKとしての活動を終えてから早5年。今でもはっきりと思い出せるほど、私にとって素晴らしい体験でした。本当に楽しかったです！ありがとうございました！！

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

合宿でみんなと踊ったり、一緒にお風呂に入った。  
ケンカをした。  
みんなでLKの舞台を成功させたこと。

### ☆1LIVE KIDSとは？

## 「挑戦」

## 第23回スタッフ

## 瀧本 優哉さん（ひめちゃん） 第23～25Pre・25kickoff・25回スタッフ 麻衣さん（まいまい）



現在は知的障がい者支援関係（2人とも）

レクリエーションボランティア団体 SUTAMO-family 事務局スタッフ

### Q1 「きっかけ・動機」

専門学校入学者もなくして、当日仲良くしていた友人と、何気なく見ていたボランティア募集のチラシに興味をそそられ参加しました！

### Q2 「変化・成長したコト」

色々な個性・性格・考え方を持つ人が集まってひとつの目標を達成するために頑張る姿に感動したのと、チーフをやらせてもらって、コミュニケーションやチームとしてまとめる難しさを体験できた！

LKのあと、参加した友人達とボランティア団体を設立して今も活動しています！

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

自分が求めている所に達せなくて必死で涙流しながら、みんなの力も借りてとりくんでいる姿！  
参加者控え室に忘れ物がないか最終確認を行ったら、ホワイトボードにスタッフのみなさん、ありがとう！って書いてあったこと！

### Q4 「大変だった！コト」

年上のスタッフとぶつかったこと。たくさん泣いたが、そのあとはとても仲良くなり、LKが終わった後もご飯に行ったりした。

### Q5 「期待するコト」

30代までではなく、もう少し年齢の幅を広げたメンバーでの活動があれば、いろいろな世代とコミュニケーションをとる機会ができる良いのではないかと思います。

### Message:

LKがあったから、きっと今の自分があって、追いかける夢が出来ました！

ありがとう！これからもいつでも立ち寄れる居場所であってほしい！

### ☆1LIVE KIDSとは？

## 「絆と感動！」

### Q4 「大変だった！コト」

会場が広すぎてスタッフなのに迷子になって、演者さんに案内してもらったこと！

### Q5 「期待するコト」

LKをなくさないで欲しい！演者にとっては、この時代あちこちで発表の場や、交流の場があると思います。だけど、スタッフとして参加した側からすると大変貴重な場だと思います！コミュニケーション、自己理解、居場所づくり。LKが終わっても、ふと連絡を取って、なんとなく集まって、みんなで遊んで仲が今も続いているスタッフ経験者がたくさんいます！



## 第22・23・24回スタッフ

### 廣田 千案貴さん（ちこたん）



現在は有田焼絵付け師修行中

#### Q1 「きっかけ・動機」

音響スタッフに興味があったこと。LK21を前年度に観ていたこともあり、スタッフとしての参加も楽しそうだと思ったこと。また、当時大学生で時間に余裕があり、ちょうど何かしたいと思っていたこともあり、参加しました。

#### Q2 「変化・成長したコト」

LKの作業やリハーサルなどをやっていくうち、分からぬこと、気になることは、確認や連絡をきちんと取るようになりました。そしてその後、バイトや仕事でもそうする癖がつきました。

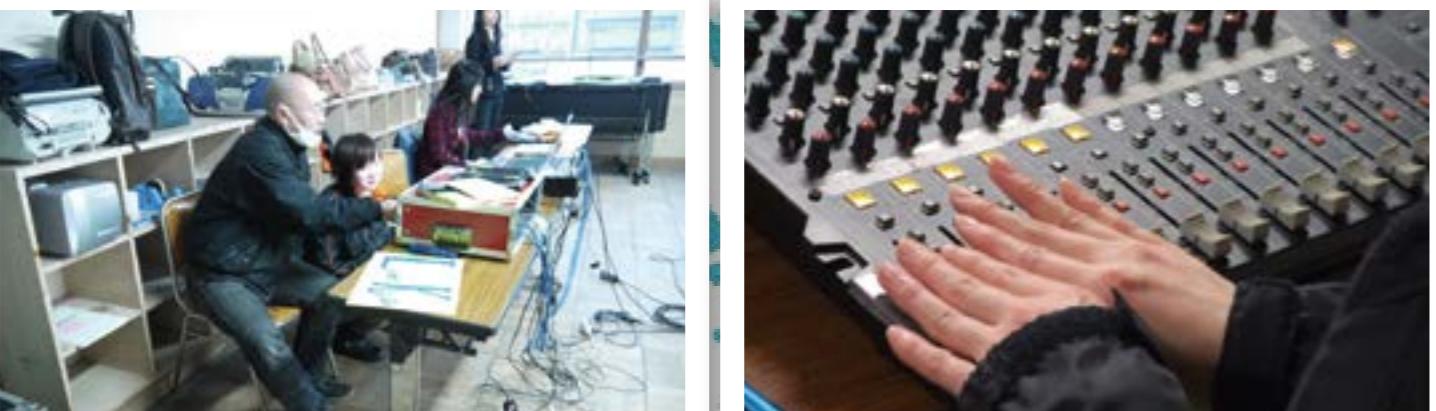
#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

プロモーション活動で、初めてのビラ配りをしたこと。やる前までは、ビラを渡す相手から無視され、嫌な顔をされるに決まっていると思い、ものすごく、やりたくありませんでした。しかし実際にやってみると、たくさん的人が受け取ってくれ、さらには、知らない人からコーヒーやお茶までいただき、案外おもしろいなと感じました。

その他にも、プロモーション活動で、お店にチラシ設置のお願いに行ったり、プロの舞台関係者の方とお話ができたり。今までにやらなかったことや、普通に大学生活を送っていたらできなかったような経験を、たくさんさせてもらいました。



72



73

#### Message:

集団生活の大嫌いな私でした。ところがLIVE KIDSは、毎週のミーティングも作業も、とにかく楽しくて。ただみんなと会って、一緒に居られることが嬉しい、いつの間にかそう感じるようになった自分に、驚きました。全員が個性を発揮しまくっているけれど、ぶつかり合っておらず、集団生活における、「特定の誰かと群れていないと不安」ということがなく、みんなとも仲が良い。こんな場所があったなんて、びっくりでした。あれから約6年が経過した今でも、京都へ帰る折、会いたいと連絡を入れる人には、やはり当時のメンバーがいます。LIVE KIDSを経験しておいて本当に、よかったです。

#### ☆1LIVE KIDSとは？

### 「様々な個性の集まり」

#### Q4 「大変だった！コト」

リハーサルや作業が連日続いたこと。

#### Q5 「期待するコト」

LKのように、いろんな世代が知恵を出し合って、仲良く成長できるようなイベント、事業があって欲しいです。

## 第24回スタッフ

### 鈴木 けいさん（りんりん）



現在はユースワーカー

#### Q1 「きっかけ・動機」

社会教育実習で青少年活動センターが実習先となり、いくつかあった候補の中で、“LK”という協会事業でも長く続く、歴史あるイベントに魅力を感じ、携わってみたいと感じたから。

#### Q2 「変化・成長したコト」

本当に色々な人に出会えた。それぞれが様々な背景を持ち、それぞれの想いがあり、それぞれにスキル（技術、特技）があり…。みんなが自分のできること、あるいはできないことの力を集結させるのは大変だったけれど、スタッフひとりひとりが、LKを創り上げるうえで絶対的に“必要”とされている場、空間に居られたのは貴重な体験だった。

#### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

1泊2日で合宿にいき、スタッフの親睦を深めたこと。ご飯の用意をして、一緒に食べて寝て、話して…と、普段のセンターMTでは見ることができないスタッフの一面が少しずつ分かって楽しかった。特に、お風呂で長い時間スタッフと語り合ったのは良い思い出。

（合宿の日？が國府さんの誕生日で、スタッフでお祝いした気が…します！）



73

#### Message:

スタッフ、出演者、関係者、センターの職員・・・のLKに対する熱い想いと必死な表情、全力で楽しむ姿・・・全部が本当にかっこよかったです

#### ☆1LIVE KIDSとは？

### 「全力で取り組むのは、 本気で楽しむため！！」

#### Q4 「大変だった！コト」

あれだけ大きなイベントをするという重圧と、それにはスタッフが足りなくて大変だったこと、スタッフで団結するまでにいろいろな事があった。また、関係者（業者さん）とのやり取りも、向こうはプロなので仕事には厳しくて、社会人の厳しさのようなものを痛感し、それにうまく応えられない時はもどかしさを感じた。会場も初めてのところ？だったからか、いつもと違う（例年通りにいかない）事が多く、戸惑ったこともたくさんあった。あとは、協賛集めと宣伝。空き時間にみんなで協力して回った。

#### Q5 「期待するコト」

LKはスタッフとして関わましたが、きっと出演者にとっでも、アマチュア時代の1つの通過点的な場所だったという人もいるのではないかと想像します。

青少年が創りあげる、青少年のための、発表の場だけではなく成果がカタチになる（審査される）場は大切だと思います。また、ダンスや音楽などをやった事がない、良く知らない人でも思い切り「挑戦できる」場であり、13歳～30歳までの幅広い年代の青少年が同じ立場で、同じ土俵に立って取り組めることがLKの醍醐味だったかと振り返ります。違う形でもいいので、こういった大きなイベントを青少年に託すような事業があればと思います。

## 第24・25回スタッフ 若山 健策さん（けんけん）



現在は会社員

### Q1 「きっかけ・動機」

大学の中では手に入れられないつながりを見つけるため。

### Q2 「変化・成長したコト」

LK24 ではなにもわからず受け身だった自分が、LK25 では自身の経験を初参加の人たちに対して少しでも伝えることができた。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

当日の片付けを終え、全員が一言ずつ話していた場面。だれがなにを言っていたということよりもあのときの雰囲気。



### Message:

当日に近づくにつれて準備も多くなり、みんな心の余裕がなくなっていて、大変そうにしてる人もいましたが、当日を迎えて、あっという間に時間が過ぎて、イベントも終わって片付けをしているスタッフ一人一人の表情が凄く明るかったのを見たとき、ここに参加できて本当に良かったと感じました。

### ☆1LIVE KIDS とは? 「遊び場」

### Q4 「大変だった！コト」

前日の搬入・力仕事。

### Q5 「期待するコト」

また遊べる場がほしい。



## 第25回スタッフ 吉田 明衣さん（めいちゃん）



現在はオンラインショップ・企画及びdesigner

### Message:

私自身はたった1回スタッフとしての活動でしたが、あの時一緒に過ごした仲間や時間はいつまでも輝いていて、今でも頑張れるモトになっています。ずっとつながりは続くだろうなと思える仲間に出会えたこと、たくさんのことが宝物です。ありがとうございました。

### ☆1LIVE KIDS とは？

### 「かけがえのない仲間と時間」

### Q1 「きっかけ・動機」

中京センターのワーカーさんから音楽関係のボランティアがあると聞いて、少し興味がありました。音楽やダンスの知識・経験も無いため迷っていたところ、担当者の國府さんとお会いして、楽しそうだなと思い参加することを決めました。

### Q2 「変化・成長したコト」

今まで同世代と大人数で何かをしたことがなく、最初の頃はミーティングに行くのすら緊張していた自分からすると、最後までやり遂げただけでも成長したと思いました（笑）。それと、何事も「やってみる」ことが大切だと思えるようになりました。グラフィックデザインの勉強を始めたきっかけもLKでした。経験したことによって見えてくるものがあるなと思いました。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

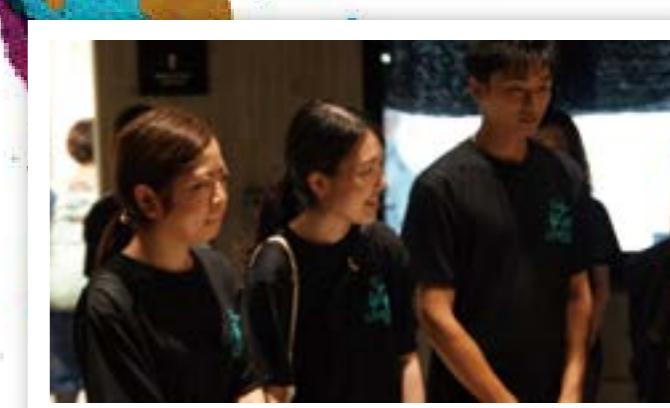
たくさん思い出がありますが、本番当日、リーダーとろちゃんの挨拶とフィナーレはすごく印象に残っています。もう一つは、本番が終わった後日に出演者の方から「素敵なイベントに参加でき、よかったです」というお礼のメールをいただいたことも記憶に残っています。

### Q4 「大変だった！コト」

当日は舞台上のセット転換を担当していました。何度もリハや打ち合わせをしていましたが、前日のリハや場当たりでは思うように動けず、焦りと不安のまま本番を迎えたことは苦しかったです。当日は制作の方々や舞転メンバーを始めた皆さんのに助けられ、無事に本番を終えた時はホッとしたのを今でも覚えています。

### Q5 「期待するコト」

LIVEKIDSのような、みんなでカタチにしていくような事業が増えてほしいと思います。結果ばかりを求められたり、評価されることが多い現代、広報から本番当日に至るまでを経験できたことは、一つずつ作り上げていく過程が大切で必要なことだと実感できました。そういう時間が過ごせる事業が増えたら嬉しいなと思います。



## 第25回スタッフ 奥村 友希さん（チェーン）

奈良県にある個別指導塾の先生・キャリアコンサルタントの資格取得を目指して勉強中・イベント運営・ライフナビプロジェクトの運営



人を喜ばせることに生きがいを感じます！

### Message:

LKとは、「出場者も運営者もみんなが笑顔で成長できる場」でした。準備期間が短く一人一人の負担が大きくなってしまった時でも、みんなで励ましあい、支えあい、乗り越えることができました。人生の中で、たった一度でも LIVE KIDS の活動に関わって本当に良かったです。たとえ LIVE KIDS の活動がここで終わったとしても、そこで出逢えた人たちとの思い出は、ずっと心の中に残っています。

今まで本当にありがとうございました。

### Q1 「きっかけ・動機」

「お金」とか「地位」とかそういった周りの人たちが大切にしている生き方ではなく、自分自身が本当に大事にしたいものに出会うため、非日常の出会いを探していました。そんな時にアクティボで「音楽祭の運営」というものを見つけ、当時の自分が興味を持っていた「エンターテイメント＝成長できる場の提供」に近いものを感じたため、参加を決意しました。また、「一歩を踏み出す若者を応援したい」という気持ちもあったため、高校生や学生が多く参加する LK に魅力を感じました。

### Q2 「変化・成長したコト」

LK では様々な年代の方たちとの触れ合いが多くあり、特に真剣に自分の仕事を全うするメンバーに影響を受けながら、自分自身の表情や声色、話し方などを分析するきっかけになりました。また、自分に自信があまりない時期でしたが、LK の皆が自分一人を認めてくれた（受け入れてくれた）ため、自分らしく居ることができました。結果として、非常に居心地の良い場所で、大変記憶に残る日々を過ごすことができました。

成長したと思うことは、LK で人生初の司会を担当させて頂いた後に、司会の仕事を頼まれ、それを引き受けたことです。もし LK で司会をしていなければ、引き受けることは絶対にありませんでした。LK で挑戦させて頂いたからこそ、中央公会堂（800 人）や奈良ホテル（400 人）といった大きな会場でも胸を張って司会をすることができました。さらに、自分のやりたいことの一つとして、「大勢の人たちが見ているところで何かを披露することに喜びや成長を感じる」という自己概念についても知ることができました。

余談としては、所属している一般社団法人パーソナルブランド協会が運営している「セミナーコンテストグランプリ（全国大会）」の場所がロームシアター京都だったため、場所の案内や誘導などを迅速に対応することができました。

### ☆1LIVE KIDS とは？

## 「出場者も運営者もみんなが 笑顔で成長できる場」

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

LK の打ち上げで、みんなが書いてくれたメッセージを今も大切にしています。

LK の活動後、舞台転換だったためいちゃんと仲良くさせてもらったり、相談や本交換を行う中で「自分の存在が誰かの支えになっていることに対する喜び」が非常に強かったです。一方で、あまり役に立たない時は、自分自身に低い評価を与えてしまうことも気づくことができました。

### Q4 「大変だった！コト」

当時、仕事をしながら様々な活動（セミナーコンテスト大阪大会への出場、ボランティアとして自然保護や国際協力活動）を行っていたため、LK の活動サポートがあまりできませんでした。しかし、一緒に司会を行ってくれた王子が、時間のない私を気遣って、京都からわざわざ大阪まで会いに来てくれた時がありました。そこで司会台本の打ち合わせをしたり、「今どういうことに悩んでいるのか」を話し合えた時に、気持ちがすごく楽になったのを覚えています。

### Q5 「期待するコト」

「一歩を踏み出したい」とか「自分を変えたい」とか、今の社会を生きる上での不安を自信に変えるために行動している若者が多いため、その若者が今の自分と向き合い、前を向き、一歩ずつ歩み続けられるようなサポートを期待しています。具体的にはキャリア教育を中心とした事業に力を入れて頂けると嬉しいです。

## 第25回スタッフ 手塚 和也さん（王子）

また何かでライブキッズに関わりたいです。  
また会いましょう！



現在は郵便局員

### Message:

私はライブキッズでは司会の役割を担いました。人前で話す事が苦手な私にとって司会という役割は大きな挑戦でした。もうひとりの司会の方はプロ並にうまく自分にすごくプレッシャーを感じました。失敗したらどうしよう、自分にできるのかと自問自答していました。そんな私を支えてくれたのが仲間の存在でした。役割は違うけどライブキッズを成功させるという同じ目標に向かって努力している仲間の存在が心の支えになりました。最初の頃はあまり個々の発言が少ないと感じていた会議も本番に近づくにつれて多くなり、メンバーも増えていき毎週の会議がとても楽しくなっていました。そして何よりもライブキッズが終わった後の達成感は今まで感じたことのないほど素晴らしいものでした。この経験を生かしてこれから的人生も頑張っていきたいと思います。

### ☆1LIVE KIDS とは？

## 「証」

### Q4 「大変だった！コト」

メンバーが最初なかなか集まらなかったこと。  
広告協賛がなかなかうまく行かなかったこと。

### Q5 「期待するコト」

社会人になって思った事ですが、学生時代にできた仲間や思い出は辛い時の心支えになります。ですので若者の記憶にも記録にも残るような活動を今後も開催していって欲しいと思います。



## 第25回スタッフ 脇坂 弾夢さん（みかん）



現在は大学生

### Q1 「きっかけ・動機」

イベント等に参加できるボランティアを探していたところ、偶然チラシを見かけた。

### Q2 「変化・成長したコト」

LKに自分からかかわり、多くの人と関わりながら多くのことを学び良い思い出になったことから、ほかにもいろいろと自分から参加するようになった。

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

LK本番に、LKに対する思いを歌ったグループがいてLKが大切にされていることを感じた。また、長く続いたLKを大きなハプニングなく無事おわることができてうれしく思った。

### Message:

LIVEKIDSに参加したこと、出演者や自分と同じような学生スタッフ、ユースサービス協会の職員さん等、多くの人とたくさんの楽しい思い出や仲間ができました！  
ありがとうございました！

### ☆1LIVE KIDSとは？

## 「仲間ができる場所」

### Q4 「大変だった！コト」

私は、LKスタッフに遅めに入ったため、仕事や場所などになれるのに時間がかった。  
合宿の日に昼から夜遅くまで部屋にこもって、音響や映像、チラシなどの製作したこと。

### Q5 「期待するコト」

難しいとは思いますが、またLKのような、音楽・ダンスなどをしている人がステージで発表できる機会があればいいなあと思っています。

## 第25回スタッフ 脇 あかりさん（あかりん）



現在は教育関係

### Q1 「きっかけ・動機」

高校の時の友達に誘われて参加しました。LKが友達と毎週会うきっかけに！

### Q2 「変化・成長したコト」

初めてボランティアに参加して、人の夢を応援する楽しさやたくさんの人と関わって1つのものを創り上げる喜びを感じました！

### Q3 「印象に残ったコト・エピソード」

高校の時も、文化祭の企画で葵さんともめたなあと思い出せました。笑 みんなとぶつかったりしたけど楽しかった。LKの後も王子の誕生日会したこと。最近は会っていないけど、素敵なかつ間です！

### Message:

ボランティアのイメージ=奉仕作業だったけど、LIVE KIDSは人の夢を応援できる場でした。  
友達もできるし、可愛い後輩もできました。

### ☆1LIVE KIDSとは？

## 「仲間」

### Q4 「大変だった！コト」

人見知りなので、ちょっと気を遣っていました。初めは。

### Q5 「期待するコト」

素敵なかつ間に出会える場。高校時代の青春をもう一度！って人には、すんごく合う場だと思いました。LKなくなったら寂しいなあ…。



# スタッフ 寄稿メッセージ

## 第14回～24回スタッフ(以降サポートスタッフ) 高橋 由美さん (どら)



広報誌ユースサービスVol.6  
寄稿メッセージ  
2011年1月1日発行  
(当時第21回スタッフ)

### ～ライブキッズには、どらが必要やねん～

この言葉をもらった時、それまでモノクロだった私の世界は一瞬でカラフルになった。

19歳で社会に出て、挫折を味わった。毎日毎日自分を否定されることに疲れてしまった。

自分の殻に閉じこもり、友人はみんな離れて行ったり、家族以外に信頼できる人間はいなくなってしまった。

そんな私はある日父から「無理に自分を殺して社会に出ることない。ただおまえは音楽が好きやから何もやらないよりは、こんなことをやってみたらどうか」と、あるホームページを見せられる。ラジオで聴いたという。それがLIVEKIDSだった。

家族にはこれ以上迷惑はかけられないと思ったし、集団で何かやることにうんざりしていたけど、とにかく説明会に行くことになった。正直、最初の説明会で全部がわかったわけではなく、わからないことがほとんどだった。それでも始めてみようと思ったんだから何か響くものがあったのかもしれない。

いざ参加し始めると、自分の世界の狭さを思い知らされた。みんな、いろんなことを知ってる。同年代が多かったのだけれど、みんな当たり前のようにパソコンが使えるし、何よりコミュニケーションスキルが半端ではない。正直かなり気持ちが焦った。

しかし焦ると同時に、もっとみんなと話してみたい、いろんなことを聞いてみたい、仲良くなりたい…と、今まですっかり忘れていた気持ちが湧き上がってきた。

いつの間にか私はLIVEKIDSの中心にいるようになり、どんどんLIVEKIDSにハマっていった。

つい数ヶ月前には笑うことすら忘れていた。話すことの大切さ、なんにでも挑戦する度胸、楽しむこと…私は全部LIVEKIDSから教わったし、失った以上の最高の友人達もできた。そして何より目標ができたのだ。

私はLIVEKIDSに救われた。

最初に参加した大会はとにかく必死だった。次の大会はもっともっと他のことをやってみたくて参加した。その次はその次はその次は…「その次は」を繰り返して、気付けば今年で7回目の参加となる。

ここには安心がある。忘れてしまいそうな情熱を取り戻すことができる。熱くなることが少なくなってしまった世の中で、ここでは熱くなれる。だから辞められない。

辛いこと、否定されることが多く、泥臭く頑張ることがカッコ悪いと思われがちな現代。

自分を必要としてもらえることがどれだけ嬉しいことか。頑張ることはカッコ悪くなんかない。

これからLIVEKIDSをはじめる人も、他のことをはじめる人も、ぜひそれを覚えていてほしいと心から願う。

## 第12回・14回(第13回はサポート)スタッフ 藤村 周子さん (しゅうこ)



LIVE KIDS広報用資料  
ボランティアスタッフメッセージ  
2011年1月寄稿

元NHK大津局キャスター  
ニュース情報番組「おうみ発610」担当  
現在NHK大阪放送局  
FMサウンドポケット なみはなのDJとして活躍中  
滋賀県野洲市出身  
京都造形芸術大学 芸術表現アートプロデュース学科卒

私は、ライブキッズ第12回と第14回のスタッフを経験しました。応募した当時は大学1年生。当時、ラジオのDJを目指していた私は、プロのDJと一緒に司会が出来るかもしれない!という期待で胸をいっぱいにして、スタッフになりました。念願かなって、第12回では、ミュージック部門の司会をさせてもらいました。ステージで、お客さんに語りかけたときの緊張と喜びは今でもはっきりと覚えています。

それをきっかけに、本格的にアナウンスの勉強をはじめ(夢が叶うまでには随分と時間はかかりましたが)、現在放送の仕事に就いています。今カメラやマイクの前で声を出して伝えるとき、いつも思い出すのはライブキッズでの経験です。

それは、司会をしたという経験だけではありません。

お客さんに喜んでもらうためにパンフレットを工夫したこと。出演バンドに気持ちよく演奏をしてもらうための誘導、イベントを成功に導くために走り回ったプロモーション。そして、仲間たちと一生懸命考えた時間です。

放送の仕事はライブキッズとよく似ています。

声が電波にのっている時間はほんの少し。ほとんどが、取材やロケ、編集、コメントづくりなどの準備です。私の場合、自分で出演するリポートのほとんどを自分で取材しています。その時に心がけているのは、見る人、取材される人の気持ちになって考えることです。

「面白い」「ためになる」と思ってもらえる放送を作るためには、色んな角度から物事を見て、伝える必要があります。

ライブキッズは、出演者にとっては「たくさんの人々に自分を知らせるチャンス」、来場者には「新たなアーティストに出会えるチャンス」です。その出会いの中にいるのがスタッフ。プロモーション活動のために町中を歩き回ってチラシを配る中で、それぞれの立場の人たちとの出会いがありました。その時、たくさん的人々が関わってイベントができる意識できたことが、今の自分を支えていると思います。

また、放送では自分自身が興味を持っているかどうか。楽しんでいるかどうかが、画面を通じて見えてきます。だから私は、取材する対象を好きになることにしています。

その点、ライブキッズの活動は、どれをとっても本当に楽しかった。音楽が好き、イベントの準備をするのが好きという気持ちで、バイトで稼いだお小遣いや寝る時間が無くなってしまって夢中で活動に参加しました。楽しむことは、アイディアを運んでいます。

そのひとつが、パンフレットにゲストバンドのインタビューページを作ることでした。前年のグランプリバンドに、ライブキッズの思い出や最近の活動について語ってもらうのです。そのページを読んで、出場バンドに「自分たちもそのページに載りたい!」と思ってもらいたいという考え方からでした。そのねらいが成功したかはわかりませんが、作る工程はとても楽しかったことを覚えています。

こうして思いをめぐらせると、楽しい思い出が書ききれないくらいに出てきます。

それは、なによりも、たくさんの仲間に恵まれたおかげです。楽しいときも、寒くて凍えそうなときも、意見が割れて苦しいときも、一緒に乗り越えてきた仲間たち。本番が終わったときには涙が止まりませんでした。

人生の中で、こんな人と深く関わりあうことはそうそう、ありません。

第14回では班チーフとして、メンバーをひっぱる立場にありました。責任感の薄いメンバーに厳しいことを言ったこともありましたが、本気でぶつかったことは、必ず人生の糧になると思います。

幾多の京都の音楽イベントでも他にはない「歴史」と「熱さ」を持っているイベントです。いつまでも続いて、たくさんの若者たちを成長させてくれることを願っています。